

第3回羽田発着枠配分基準検討小委員会 議事概要

日時：平成24年10月1日（月）18時～20時

場所：3号館11階特別会議室

主なご意見：

○ 新規航空会社の取扱い

- ・新規の扱いと地方ネットワークの論点は表裏一体の関係。
- ・当初の新規優遇の目的はすでに達成しており、新規優遇を踏襲する必要はない。12機という今までの新規の基準に届かないところについては配慮した上で、ネットワーク等航空会社の内容を評価すべき。
- ・新規優遇の導入当時と現在のマーケット状況は変化しており、新規枠を残せば逆に市場を歪めることになりかねない。
- ・本来は、新規の扱いを議論する前に、地方ネットワークについてしっかり考えておくべき。

○ 地方ネットワークのあり方について

- ・ネットワークの増加ではなく維持を評価するという考え方をとるべき。ウェイトをつけられるようにという意味でも、ストックで評価すべきではないか。
- ・航空会社が内部補助で路線維持の努力をしているところを評価しても良いのでは。既存の規模の維持についても評価すべきであり、ネットワーク形成への貢献度を見てはどうか。
- ・ネットワークの現状を見るという意味では、ローカル to ローカルを評価に含めるべきではないか。
- ・乗り継ぎによって利便性を確保するという考え方もあり、そういう意味ではローカル to ローカルの評価も入れておく形にしておいた方が良いのではないか。
- ・利用者利便から地方ネットワークを考えると、少なくとも1日に3便（朝、昼、夜）飛んでいなければ観光面、あるいはビジネス面に資するという事にはならない。
- ・離島路線は他の地方路線と性格が異なってくるので、わけて考えるべき。

○ 安全面での評価

- ・安全情報を安全以外に使用出来ないというICAOの方針は理解できるが、安全性向上のインセンティブとなる項目を作ることは、現場にとっても良いことであり、ぜひ考えて欲しい。
- ・安全に対する有意な評価ができる指標をぜひ検討して欲しい。
- ・安全について今まではネガティブ評価であったが、ポジティブ評価にしても良い。

○ 競争性の導入

- ・オークションメカニズムは、緊張感を持たせるという意味で重要だが、解決すべき課題が多く、我が国においてはまだ先の課題。
- ・二次取引ができないとオークションは整合的にならない。
- ・政策枠を活用し、地域と航空会社の連携した取組を審査する仕組みを導入し、そこで将来の実効性を見ていくという考えもある。
- ・オークションと言うより、地域と航空会社の連携した取組をコンテストで評価するような仕組みを作ってはどうか。地域や関連産業を巻き込んだ知恵の競い合いを経て、競争力がついていく。
- ・スロットという希少な資源をできるだけ上手く使って貰うという意味でオークションは理論的には良いメカニズム。法的な面を含め課題を報告書に入れて貰い、別に議論の機会を設けるなど今後の議論に繋がるようにしてほしい。
- ・今後スロットをどう使うかという視点は重要。

○ 破綻事業者

- ・破綻の話は、ネットワーク部分にウェイトをつけて評価することで結果的に反映されるのでは。
- ・更生法を申し立てたことを理由にして、発着枠の問題で扱いを変えるということではない。一方、営業費用等、公的支援で影響を受けたような項目については、その影響を考慮する必要。
- ・破綻そのものに対してマイナス評価をするのは反対。
- ・破綻事業者に対する評価は何らかの形で盛り込まざるを得ない。破綻という項目を立てるのではなく、更生手続期間に影響を受けた項目の評価に何らか反映させる手段が要るのではないか。

○ 評価項目の見直し

- ・今回の新しい評価指標を将来に向けて使うという観点も必要。
- ・次に評価を実施する際には、各社が今回の評価項目に基づき取り組んできたことを踏まえた上で、議論が行われるべき
- ・項目の中でウェイトをつけることも議論が必要。
- ・ルールを単純化すると恣意性が生ずる可能性もあるので、できるだけ客観性を確保すべき。

以上